

第2部 基本目標ごとの施策

第4章 教育文化

地域と人のつながりの中で みんなが育つまち

未来を担う子どもたちが生き生きと元気に学ぶことができるよう、教育環境の充実と更なる向上を図ります。家庭・学校・地域の連携により、地域づくりに寄与する特色ある教育活動を推進するとともに、防災教育を核とした「いのちの教育」やラグビー、世界遺産・橋野鉄鉱山など、歴史・文化を通じた郷土愛の醸成により、次代を担う人材を育みます。また、子どもから高齢者まで、全ての世代でスポーツや芸術・文化に親しむことができ、生涯を通じて学ぶことができる環境を整えることにより「地域と人のつながりの中でみんなが育つまち」を築きます。





1 未来を担う子どもたちの育成

2030年のありたい姿

幼児については、就学前の子どもが保護者の就労状況や障がいの有無、通っている施設の種類に関わらず、等しく幼児教育を受けることができおり、健やかな成長が図られています。

学校においては、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が推進され、確かな学力を身につけ、豊かな心と健やかな体を育むとともに、学校と家庭・地域が連携し、キャリア教育や探究的な学習*が促進されることで主体的に取り組む児童生徒が増え、「強く生き抜く力」が身についています。

各小中学校において実践されている「いのちの教育」によって、地域や自然に対する理解、郷土への誇りが深まり、「強く生き抜く力」が育成され、自他の命を守るために適切に判断し、主体的に行動できています。

施策の体系

未来を担う
子どもたちの育成

健やかな成長を図る幼児教育の充実

生きる力を育む学校教育の充実

これまでの取組

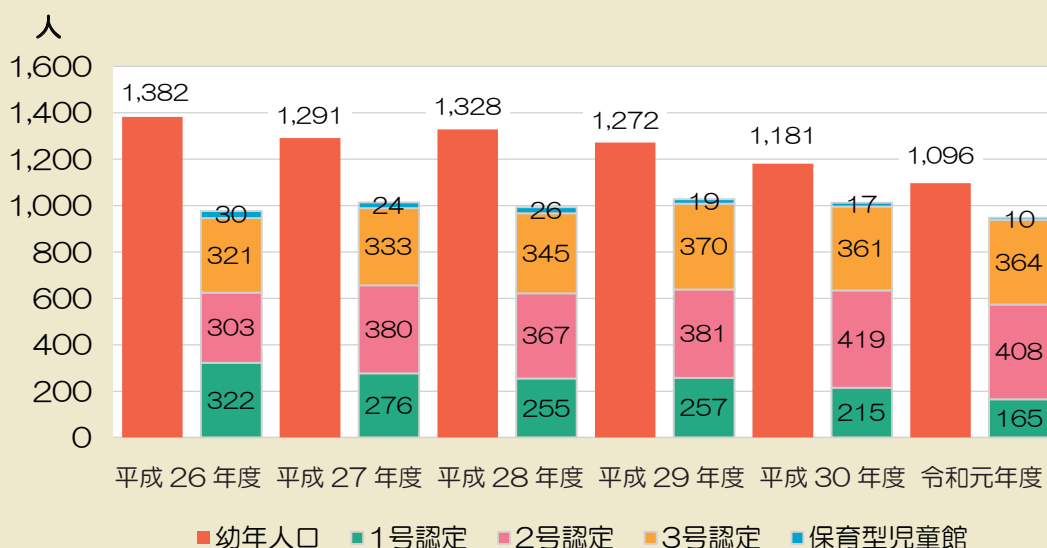
- ・ こども園、幼稚園、保育所、小規模保育事業所、保育型児童館を「幼児教育施設」として一体的に捉え、互惠性のある交流、合同研究会や研修会を通じて、小学校への円滑な接続が可能になるよう取り組んでいます。
- ・ 釜石の復興と将来のまちづくりを担う子どもたちに「強く生き抜く力」を育成し、基礎的・基本的な学習内容の定着に向け、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や、豊かな心・健やかな体の育成に向けた教育内容の充実・教育環境の整備などに取り組んでいます。
- ・ 各小中学校において、「いのちの教育」として、教育活動全体で防災教育を核とし、自他の命を守り、尊重する心を培っています。

現状と課題

- ・少子化や核家族化、保護者の就労形態の多様化など子どもを取り巻く社会的環境の変化に伴い、幼児教育施設の役割は、更に大きなものになっています。また、共働き家庭の増加に伴い、保育所の需要は増加する一方で、幼稚園では定員割れ等の課題が発生しています。
- ・小中学校においては、児童・生徒数の減少が急速に進んでいる状況にあり、これからも減少していくことが想定されています。
- ・少子高齢化や急速な技術革新、グローバル化の進展等、子どもたちを取り巻く状況が変化しています。
- ・予測困難な時代を強く生き抜くために、小学校から中学校までのキャリア教育に関わる諸活動の記録を蓄積し、高等学校へつなげ、人間関係形成力や社会参画力、自己の在り方や生き方を考え、主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む必要があります。
- ・各校において小中9年間を見据えた「いのちの教育」の充実及び改善を図りながら継続的に取り組んでいくとともに、津波だけではなく土砂災害等の自然災害への意識を高め、対策について、家庭・地域と協働して取り組む必要があります。

統計データ

市内教育・保育施設利用児童数の推移



※ 1号認定（満3歳以上の未就学児（2号認定を除く））
 2号認定（満3歳以上の保育が必要な子ども）
 3号認定（満3歳未満の保育が必要な子ども）
 保育型児童館（3・4・5歳児）

資料 / 釜石市

1 未来を担う子どもたちの育成

主な施策

1－1 健やかな成長を図る幼児教育の充実

1 幼児教育施設における教育内容の充実

- ・多様な就労形態や保育ニーズに対応するため、質の高い教育の提供を進めるとともに、市内のどの幼児教育施設を利用しても充実した幼児教育を受けられるよう取り組みます。

2 家庭や地域との連携強化

- ・幼児教育施設において家庭教育の重要性を啓発するとともに、地域との連携強化に努めます。

3 幼児教育施設と小学校との連携強化

- ・幼児期から初等教育への円滑な接続を図るため、「幼保小接続カリキュラム」及び各校で作成している「スタートカリキュラム」の活用等、小学校との連携を強化します。

1－2 生きる力を育む学校教育の充実

1 確かな学力の育成

- ・生涯を通じ能動的に学び続けることが出来る資質・能力が培われるよう、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組みます。また、ICTの活用により主体的な学びを促し、確かな学力の育成を図ります。
- ・確かな学力を育成するために、教職員の研修を充実し、資質・能力の向上を図ります。

2 豊かな心の育成

- ・自然を愛する心、倫理観や社会性、奉仕と感謝の心などを育むために、釜石らしさを生かした育ちのデザインとして、自然体験活動や社会体験活動、郷土の文化や伝統に親しむ活動など体験活動の充実を図ります。
- ・社会の中に多様な価値観があることを理解し、他の人の価値観を尊重しながら自分らしく生きていくことの大切さを学ぶ機会の充実を図ります。

3 健やかな体の育成

- ・子どもたちが運動の楽しさや喜びを実感し積極的に運動に取り組む環境づくりに努め、体力の向上を図ります。また、健康教育の充実により、心身の健康の保持及び増進を図ります。

4 いのちの教育の推進

- ・「自他の命を守るために、主体的に行動することができる子ども」を育てるために、防災教育を核としながら、全ての教育活動を通じて自他の生命を尊重する心を培います。
- ・自然災害への理解を深め、災害から命を守る態度や実践力を身につけます。

5 国際理解教育の充実

- ・伝統と文化を尊重し、郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養い、国際社会において主体的に行動できる児童・生徒の育成及び外国語を通じて人とつながるためのコミュニケーション能力の育成を目指します。

6 小学校から高等学校までの系統的なキャリア教育の推進

- ・子ども一人ひとりの勤労観・職業観を育むとともに、自己の在り方・生き方を考え、社会人・職業人として自立するために、発達段階に応じた系統的なキャリア教育を推進します。また、当市の高等学校のキャリア教育の取組である「釜石コンパス」での様々な「働く大人」との出会いを通じて更に勤労観・職業観を深め、将来の進路の選択肢を広げます。

施策の成果指標

指 標	現状値	目標値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
5歳児の育ちを促す共通の指導指針に基づいた取組を行っている園の割合	76.9% (令和元年度)	100.0%	100.0%

指標設定の考え方：「発達と学びの連続性」を確保するためには、就学前から小学校へ円滑に移行することが重要であるため。

「自分にはよいところがあると思っている（自己肯定感を持っている）児童生徒（積極的肯定）」の割合	28.0% (小学生) (平成31年4月)	35.0% (小学生)	40.0% (小学生)
	14.0% (中学生) (平成31年4月)	25.0% (中学生)	30.0% (中学生)

指標設定の考え方：生きる力を育む学校教育の充実を図り、自己肯定感を育てていくため。



2 子どもを育む環境づくり

2030年のありたい姿

学校と地域が連携し、郷土芸能や産業学習、地場産物を活用した食育、鉄に関する学習など各地域の特色に応じた「釜石らしさ」を生かした学びを通じて郷土愛が醸成され、将来的に釜石に愛着を持って関わり続け、釜石の発展を支える人材が育成されています。

インクルーシブ教育*の理解が進み、共生社会が実現されています。

子どもたちやその保護者、教職員のストレス障害などを早期に把握し、教育現場における細やかなケアができています。

施策の体系

子どもを育む
環境づくり

地域づくりに寄与する特色ある教育活動の推進

教育環境の充実とさらなる向上

これまでの取組

- ・防災教育を核とした「いのちの教育」を推進し、学校ごとに地域と連携した教育活動を行うとともに、小学校及び中学校において地域に元気を与えるような活動、当市の風土、伝統及び有形無形の財産を活用して郷土理解を深め、郷土への誇りと愛着を育む活動を行っています。
- ・子どもたちやその保護者、教職員のストレスなどを早期に把握し、教育現場におけるきめ細かなケアに対応できるよう、専門職を配置し、継続的・長期的な心のケア対策を行っています。また、いじめに関して、課題意識を共有し、未然防止と早期解決に向けた対応を行いながら、被害児童生徒の心のケアを適切に行っています。
- ・東日本大震災により使用不能となった学校の復旧・再建工事が全て完成し、既存の学校施設においても、教育環境の改善のため、必要な維持補修を行っています。また、教育と防災のためのWi-Fi環境を市内小中学校の体育館に整備し、ICTを活用した教育の充実を図るとともに、災害時には市民がWi-Fi環境を利用できるよう、避難所機能の充実にも取り組んでいます。

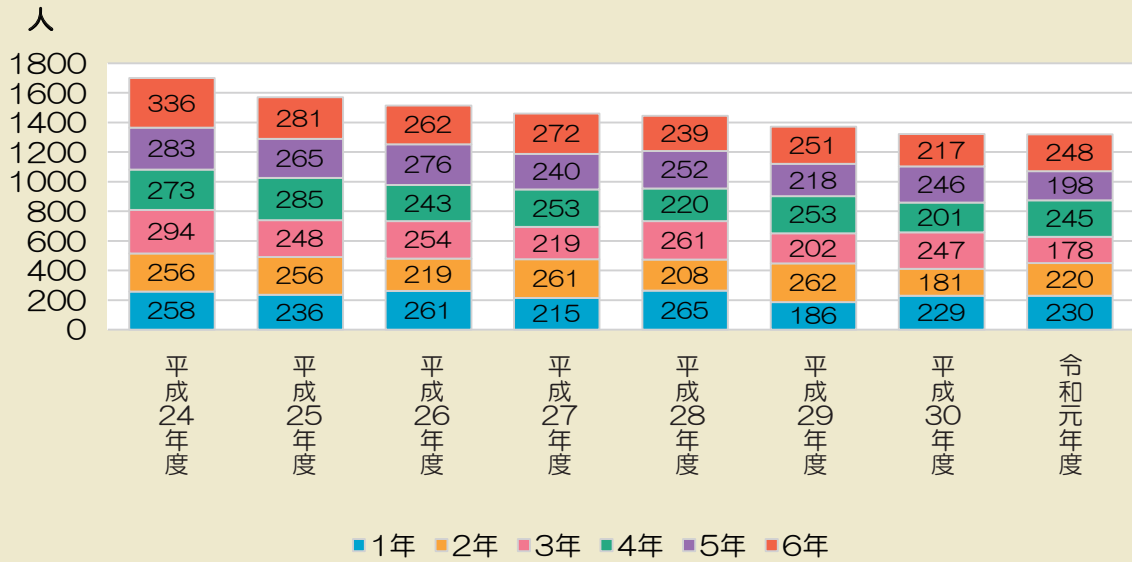
現状と課題

- ・これまで各学校地域の特色に応じた活動を行ってきましたが、それらを今後、子どもたちや地域、釜石市等にどのように生かし実施すべきか検討していく必要があります。
- ・子どもの心のケアは複雑化、保護者のニーズは多様化している状況にあります。
- ・小中学校は児童・生徒の教育のための施設であるだけでなく、各地域コミュニティの核としての役割を持ち、防災、地域の交流の場等、様々な機能を有していますが、古いもので築60年の施設もあり、施設の安全性の確保が求められています。



統計データ

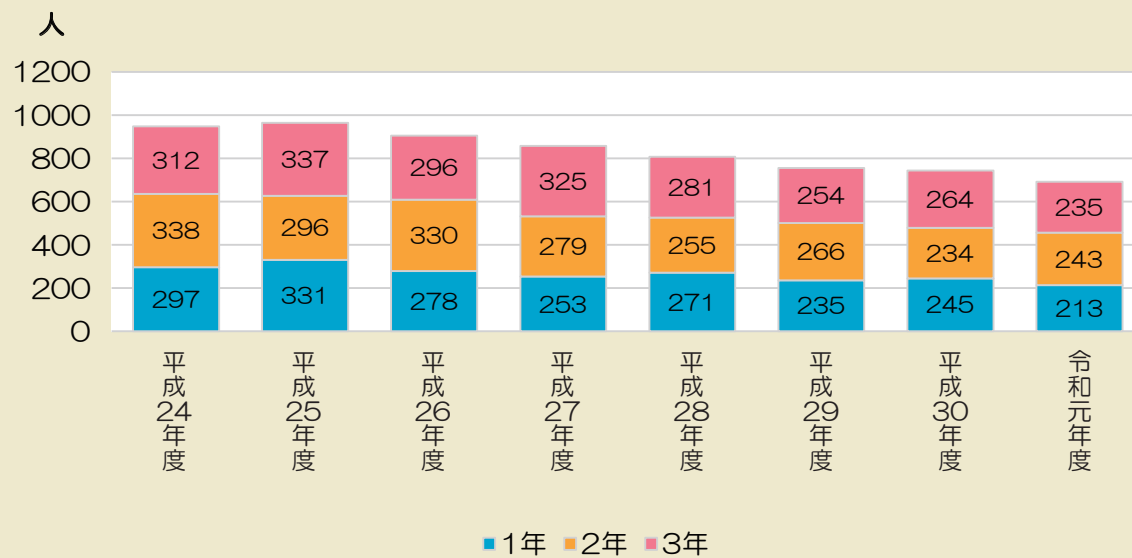
市内小学校 児童数



資料 / 釜石市

基本計画

市内中学校 生徒数



資料 / 釜石市

教育文化

2 子どもを育む環境づくり

主な施策

2-1 地域づくりに寄与する特色ある教育活動の推進

1 地域との交流の推進

- ・福祉施設への訪問・慰問、地域のイベントやボランティア活動、地域清掃活動等に積極的に参加し、地域に元気と活力を与えます。
- ・地域の方々との交流や地域活動への参加を通じ、地域への愛着と感謝の心を育みます。

2 郷土理解を深め、郷土への誇りと愛着を育む活動

- ・地場産業の体験学習、史跡見学、郷土芸能への参加等により、郷土理解を深め、郷土への誇りと愛着を育み、郷土の文化や歴史を後世に継承できるよう努めます。

3 児童生徒の主体的な活動の推進

- ・子どもたちが自分たちの生活や地域のことに課題意識を持ち、解決に向け自分たちで考え、主体的に取り組む姿勢と実践力を育てます。

4 学校給食を生かした食育の推進

- ・全ての児童・生徒が栄養バランスの良い食習慣を身につけ、健やかな成長と食を大切に思う心が育めるよう、学校給食を通じた食育を推進するとともに、食の安全に対する理解を深めます。
- ・地場産の食材を生かした給食の献立により、地域の特産物への理解を通じて、食への関心を高めます。



鉄づくり体験(釜石市立甲子中学校)

2-2 教育環境の充実とさらなる向上

1 学校施設の適正な維持管理と環境整備

- ・学校施設の状況に応じ、修繕や改修、改築など適切な対応を図るとともに、防災機能としての充実を図ります。また、児童生徒数の変動を踏まえ、学校の適正規模・適正配置について検討を行います。
- ・必要な教材や機器の整備、通学路の安全確保及びスクールバス等、最適な学校環境整備に努めます。
- ・ICT教育*推進による学びの充実を図るため、オンライン学習などに取り組める環境の充実・整備を行います。

2 家庭や地域との連携強化

- ・学校運営に当たっては、家庭や地域と目標を共有しながら目標達成に向け、連携・協働した取組を行い、学校・家庭・地域の課題解決に努めます。
- ・スクールガードによる子どもの見守り活動、各種ボランティアによる学校支援など家庭、地域との連携により、子どもたちの安全確保や学校生活充実のための教育環境の整備に努めます。

3 相談機能の充実

- ・いじめや不登校をはじめ、様々な問題や悩みに対応するため、スクールカウンセラーの活用、教育相談員の配置などにより、相談・支援体制の充実を図ります。

4 特別支援教育の充実

- ・特別な配慮を必要とする子どもに対しては、就業前から卒業後まで一貫した支援を行うため、情報の共有や引継ぎなど連携を強化し、「ともに学び、ともに育つ教育」の推進に努めます。

施策の成果指標

指 標	現状値 (令和元年 10 月)	目標値 (令和 7 年度)	目標値 (令和 12 年度)
市内小中学生が「自分の住む地域や社会をよくするために、何をすべきか考えたことがある（積極肯定）」と回答した割合	21.0% (小学生) 18.0% (中学生)	25.0% (小学生) 25.0% (中学生)	25.0% (小学生) 30.0% (中学生)

指標設定の考え方：子どもたちが自分たちの生活や地域のことに関心を持ち、課題意識を持ち、解決に向け自分達で考え、主体的に取り組む態度と実践力を育むため。



3 生涯学習・スポーツの振興

2030年のありたい姿

生涯学習では、多様な市民が教育や生涯学習に参画できる環境が整っており、様々なライフステージに応じて、市民が生涯を通じて自己を磨き、豊かな人生を送ることができています。

スポーツ面では、ラグビーワールドカップ2019™日本大会岩手・釜石開催をレガシーに、全ての市民がラグビーをはじめとしたスポーツに親しむ機会が創出されています。また、大規模なスポーツイベントが開催され、「ラグビーのまち釜石」としての認知度が一層向上しています。

公民館、図書館や市民ホール、市民体育館などの公共施設は、効率的な維持管理が図られ、市民の生涯学習活動の拠点として、地域コミュニティの活性化が図られています。

施策の体系

生涯学習・
スポーツの振興

学びと実践が循環しつながりを創出する生涯学習社会の形成

豊かな生活と新たな価値を生み出すスポーツの推進

これまでの取組

- ・大学や多種多様な団体・機関と連携した講座の開催、地域の実情に則した公民館事業の展開など、幅広い分野の生涯学習機会の提供に努めています。
- ・スポーツ面では、ラグビーワールドカップ2019™日本大会岩手・釜石開催や大規模な関連イベントの開催など、「ラグビーのまち釜石」としての関心や価値を一層高める取組を行ってきました。また、仮設住宅・復興住宅や教育・児童福祉施設などにおいて、市民が運動する機会をきめ細かに提供し、運動不足の解消や心身の健康づくりを進めています。
- ・震災により多くの生涯学習・スポーツ関係施設が被災したため、公民館や市民ホール、市民体育館など、市民の生涯学習活動の拠点となる施設の整備、既存施設の機能向上のための改修工事などを行ってきました。

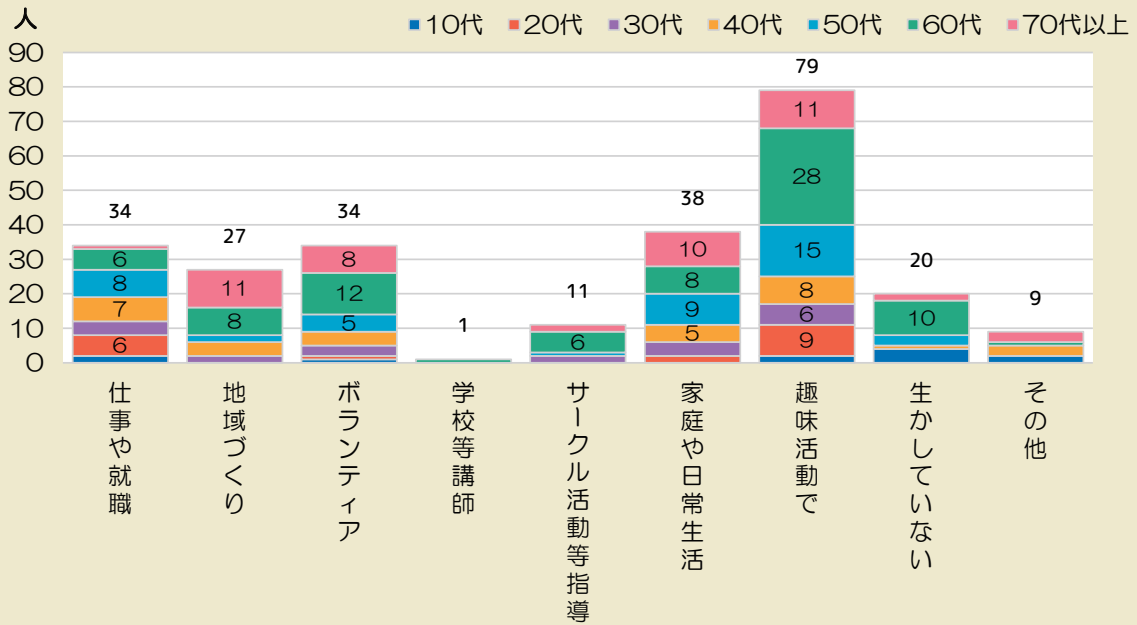
現状と課題

- ・人口減少や少子高齢化に伴い、各種教室等への参加者は固定・高齢化傾向にあります。また、学習の成果を生かす機会（年齢などその他、特定の制限がない、誰でも参加ができる場）がなく、学びの成果が十分に生かしきれていない課題もあります。
- ・ラグビーワールドカップ2019™日本大会岩手・釜石開催を契機に、子どもたちへのラグビー普及、選手やクラブの育成強化、釜石鵜住居復興スタジアムの効果的な活用など、「ラグビーのまち釜石」として、更なる取組の推進が求められています。
- ・既存施設の中には、老朽化などに伴う維持補修や大規模改修、建替えが必要と想定される施設があり、今後を見据えた適切な維持管理や施設配置を行う必要があります。



統計データ

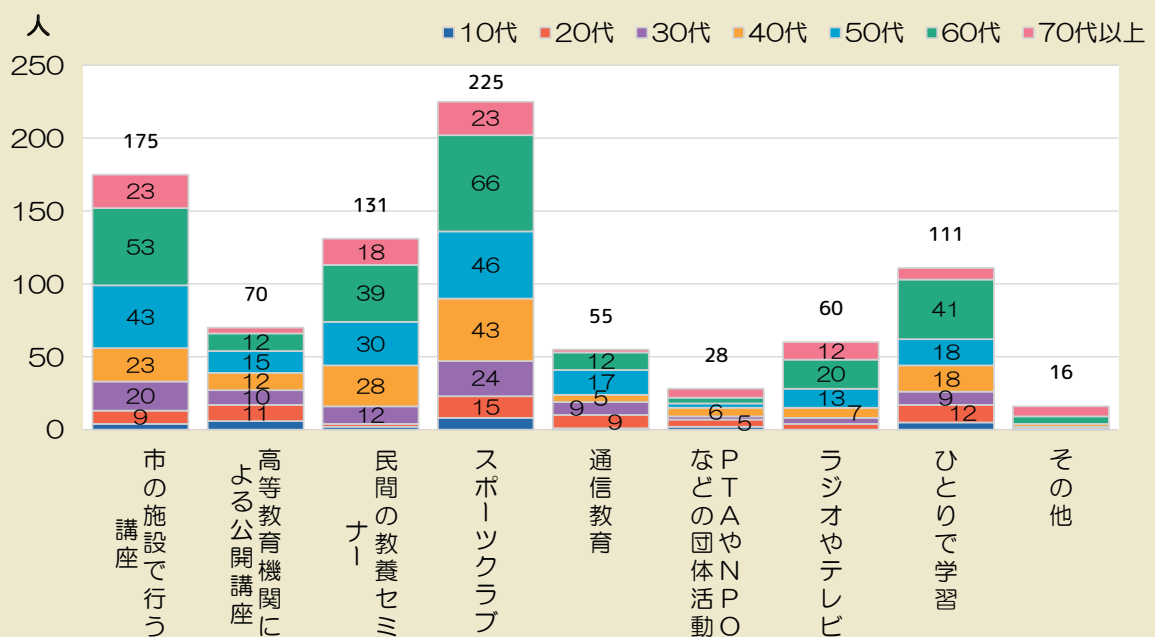
学習や活動の成果をどのように生かしているか



資料 / 釜石市「釜石市生涯学習基礎調査」(平成 29 年度)

基本計画

今後利用したい学習の機会



資料 / 釜石市「釜石市生涯学習基礎調査」(平成 29 年度)

教育文化

3 生涯学習・スポーツの振興

主な施策

3-1 学びと実践が循環しつながりを創出する生涯学習社会の形成

1 ライフステージや社会の要請に応じた学習機会の提供

- ・市民の様々なライフステージにおける多様なニーズを把握し自主的な学習を支援するとともに、変化が著しい現代社会に適応していくために必要な学習機会（ＩｏＴ、ＩＣＴの活用等）や図書資料・情報提供に努めます。

2 地域全体で子どもを育む環境づくりの推進

- ・地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていく体制の構築や確立に努め、多世代がつながり、子どもから大人まで学び育ち合う環境の醸成を図ります。

3 大学や関係機関・団体等との連携強化

- ・個人の生活の充実につながる学びとともに、現代的課題や地域課題の解決に役立つ多様な専門的な学習機会を提供していくため、大学や関係機関、民間団体、企業などとの連携強化を図ります。

4 施設の適切な維持管理と整備

- ・公民館・図書館など生涯学習拠点施設の適切な維持管理に努めるとともに、順次整備を検討します。

5 読書活動の推進

- ・図書館を中心に市民が求める図書資料の充実やサービスの提供に努め、読書活動の推進により、市民が生涯にわたり、文化的・創造的な生活ができる環境づくりを推進します。

6 学習支援・指導を担う人材の育成

- ・市民の生涯にわたる学びを支援するとともに、学びの成果が適切に地域社会に還元されていくよう、生涯学習・社会教育に関し指導的役割を担う人材を育成します。

3-2 豊かな生活と新たな価値を生み出すスポーツの推進

1 市民スポーツの振興

- ・各種イベントや大会の開催とともに、誰もが親しみ楽しめるニュースポーツや軽運動の普及に努め、市民が日常的に運動する機会の増加を図ります。

2 スポーツによる交流人口の創出

- ・ラグビーワールドカップ2019™日本大会岩手・釜石開催のレガシーを生かしながら、「ラグビーのまち釜石」推進の構想を具体化し、スポーツによる交流人口の創出や地域経済の活性化につながる取組を推進します。

3 スポーツ関係団体等との連携強化

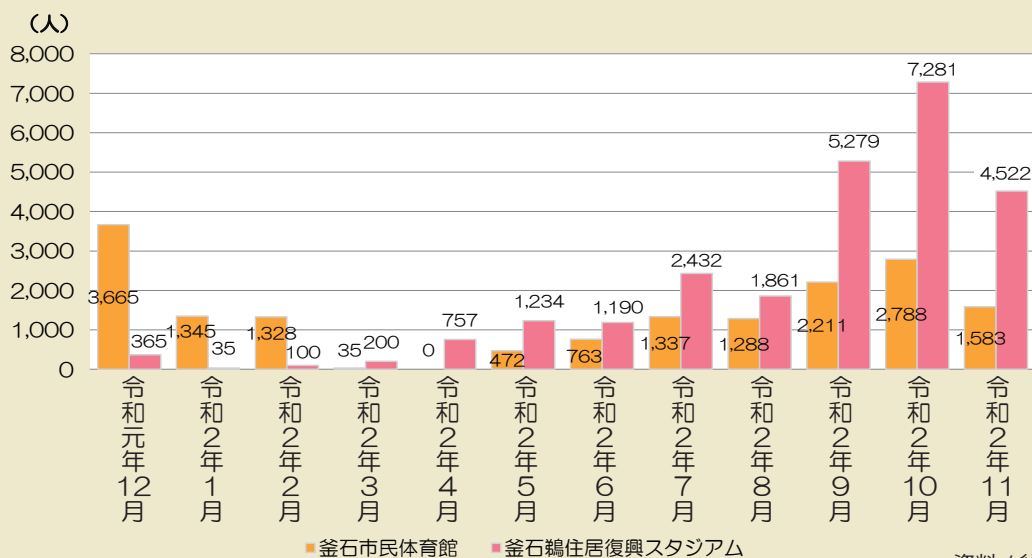
- ・釜石シーウェイブスや関係機関と協働し「ラグビーのまち釜石」としての振興を図ります。
また、各種スポーツ団体や釜石市体育協会などとの連携を強め、競技選手の強化や育成に努めます。

4 スポーツ施設の利用促進

- ・利用者の利便向上につながる施設整備・運営に努め市民のスポーツ環境の充実を図ります。
また、市民体育館や釜石鵜住居復興スタジアムなどの大規模施設は、スポーツや文化・交流イベントなど、市の魅力を発信し交流人口の創出にもつながる利活用の促進を図ります。

統計データ

■ 釜石市民体育館利用者数及び釜石鵜住居復興スタジアム来場者数の推移



施策の成果指標

指 標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
市民一人当たりの公民館施設利用回数	2.25 回	2.25 回	2.25 回

指標設定の考え方：ライフステージや社会の要請に応じた学習機会を提供し、学びを通じて、成長する喜びを地域全体に波及させるため。

スポーツ合宿誘致団体数	0 団体	13 団体	15 団体
-------------	------	-------	-------

指標設定の考え方：スポーツツーリズムの推進により、交流人口の拡大やにぎわいの創出を目指すため。

市民一人当たりの体育施設利用回数	4.21 回	4.50 回	5.00 回
------------------	--------	--------	--------

指標設定の考え方：スポーツや文化・交流イベント等、体育施設の利用を通じて、市の魅力を発信し、交流人口の創出につなげるとともに、市民が日常的に運動する機会の増加を図るため。

市民一人当たりの健康づくり教室利用回数	0.26 回	0.30 回	0.40 回
---------------------	--------	--------	--------

指標設定の考え方：健康寿命の延伸を目指すためには、各地区生活応援センター単位で行われている健康づくり教室などへの参加率を向上させていく必要があるため。



4 歴史・文化・芸術文化の振興

2030年のありたい姿

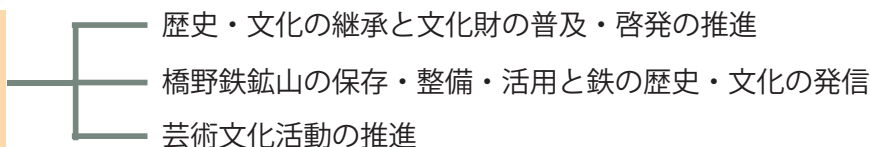
釜石の歴史・文化財・郷土芸能が継承され、世代を超えたつながりが育まれるとともに、屋形遺跡は国指定史跡となり、交流人口の創出の場となっています。また、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である橋野鉄鉱山を中心に、近代製鉄発祥の地として歴史・文化の魅力が世界に発信されています。

芸術文化については子どもから大人まで誰もが芸術文化に親しみ、触れ合うことができ、市民の自主的・創造的な芸術文化活動が促進されています。

市民にとって、歴史・文化・芸術は心の拠り所となり、心豊かな生活が実現しています。

施策の体系

歴史・文化・
芸術文化の振興



これまでの取組

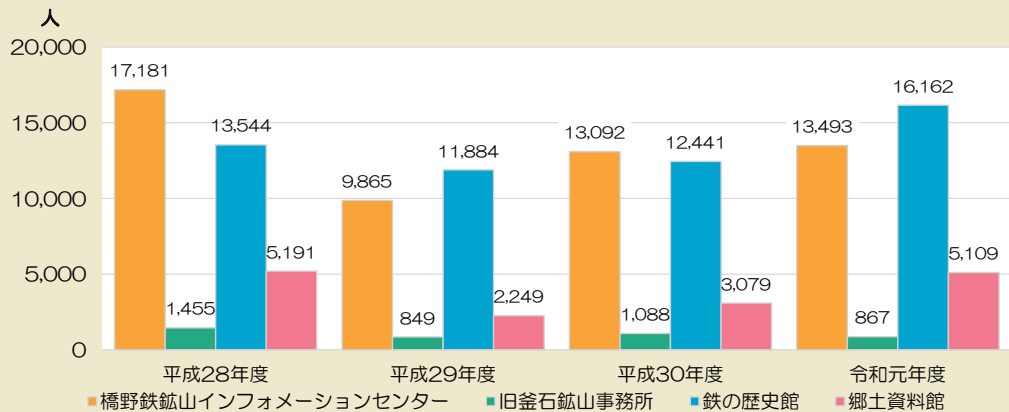
- ・歴史・文化財・郷土芸能の保存と活用を図るとともに、被災した郷土芸能団体（神楽や虎舞等）の活動や文化財の復旧等の支援及び、東日本大震災の復興事業に伴う緊急発掘調査を実施しました。
- ・近代化産業遺産の保存や活用、橋野鉄鉱山のユネスコ世界遺産登録に向けて取組を行い、平成27年7月に橋野鉄鉱山を含む「明治日本の産業革命遺産」が世界遺産に登録されました。
- ・釜石市郷土資料館の内容充実と利用者の利便性を図るため、施設の整備や機能向上のための大規模改修を行いました。
- ・東日本大震災で被災した釜石市民文化会館にかわる新たな拠点施設として、釜石市民ホールの整備を行ったほか、釜石市民芸術文化祭や釜石市民劇場など市民への芸術文化活動・音楽活動の発表及び鑑賞の場を提供しています。

現状と課題

- ・過疎化・少子高齢化などを背景に、文化財の滅失や散逸等の防止が課題となっております。指定文化財はもちろんのこと、未指定を含めた文化財をまちづくりに生かしつつ、その継承に取り組む必要があります。
- ・世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である橋野鉄鉱山においては、その価値の理解増進と来訪者増加に向けた取組が必要になっています。
- ・人口減少・高齢化などを背景に、芸術文化活動においては後継者不足や活動資金の減少が生じ、芸術文化活動の低迷が危惧されます。
- ・文化施設の中には、老朽化などに伴う維持補修や改修工事が必要と想定される施設があり、今後を見据えた適切な維持管理を行う必要があります。

統計データ

橋野鉄鉱山インフォメーションセンター、旧釜石鉱山事務所、鉄の歴史館、郷土資料館来訪者数の推移



資料 / 釜石市

主な施策

4-1 歴史・文化の継承と文化財の普及・啓発の推進

1 歴史・文化の継承

- ・釜石の文化財を保存し、後世に伝えていくため、文化財の調査、指定を行います。
- ・指定・未指定を問わず文化財や古文書の遺失や散逸が課題となっているため、文化財保存活用地域計画を策定し、歴史・文化の継承に努めます。

2 文化財の普及・啓発の推進

- ・学校や郷土資料館、生活応援センター、観光事業者と連携し、市民や国内外の人々に当市の文化財の普及・啓発を行い、交流の活性化に努めます。

3 郷土芸能の伝承支援

- ・郷土芸能を後世へ継承するため、支援や発表の場の創出に努めるとともに、郷土芸能の伝承活動の場を提供するため、郷土芸能伝承施設の維持管理と活用に取り組みます。

4 埋蔵文化財の調査

- ・開発事業により失われる可能性がある埋蔵文化財を保護するために、遺跡の調査を適切に実施するとともに、当市の重要な遺跡である屋形遺跡の保存・活用のため、発掘調査と環境整備を行います。

4 歴史・文化・芸術文化の振興

4-2 橋野鉄鉱山の保存・整備・活用と鉄の歴史・文化の発信

1 橋野鉄鉱山の保存・整備・活用の推進

- 橋野鉄鉱山に現在残っている遺構を適切に保存し、その遺構の規模や用途、製鉄の産業システムを分かりやすく解説し、世界遺産価値の理解増進を図るため、情報発信に努めます。

2 近代製鉄の歴史・文化の発信と学びの充実

- 近代製鉄発祥の地である釜石の歴史的な魅力を発信し、郷土愛の向上に努めます。また世界遺産及び所管施設、近代化産業遺産、三陸ジオパーク、釜石オープン・フィールド・ミュージアムなどを活用し、釜石の鉄の歴史・文化を学習する機会の充実に努めます。

3 世界遺産関連施設の適切な管理運営

- 釜石の製鉄や鉱山の歴史文化を学習する施設として橋野鉄鉱山インフォメーションセンター・釜石市立鉄の歴史館・旧釜石鉱山事務所の更なる内容充実を図るために、適切な維持管理に努めます。また各施設の機能を生かした企画展の開催や資料の収集と適正保管への対応、調査研究の推進に努めます。

4-3 芸術文化活動の推進

1 芸術文化の充実と活動支援

- 市民の誰もが芸術文化に触れる機会を提供し、芸術文化団体等の活動支援の充実を図ります。
- 釜石市民ホールの効率的な運営と利用者へのサービス向上を図るために、利用者の声を参考にしながら施設管理の充実に取り組みます。

2 郷土の歴史文化の継承

- 郷土の歴史や教訓などを学習する機会を提供するために、郷土資料館の充実に取り組みます。学習拠点として更なる内容充実と企画展の開催、資料の収集と適正保管への対応を図るとともに、調査研究の推進に努めます。

施策の成果指標

指 標	現状値	目標値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
釜石市橋野鉄鉱山インフォメーションセンター・釜石市立鉄の歴史館・旧釜石鉱山事務所・釜石市郷土資料館の来訪者総数	30,059人 (平成29～令和元年度の平均)	▶ 31,470人	32,967人

指標設定の考え方：歴史遺産や芸術文化の振興を図るためには、近代製鉄発祥の地として歴史・文化の魅力を発信し、市内外から訪れる人を増やす必要があるため。

市内の郷土芸能活動団体数	43団体 (令和元年度)	▶ 43団体	43団体
--------------	-----------------	--------	------

指標設定の考え方：郷土芸能を後世へ継承していくためには、郷土芸能団体への支援や発表の場の創出に努め、活動団体数の現状を維持していくことが必要であるため。

市民一人あたりの市民ホール利用回数	3.5回 (平成30年度)	▶ 3.8回	4.2回
-------------------	------------------	--------	------

指標設定の考え方：文化活動、音楽活動の充実を図り、文化活動拠点を活性化させ、かおり高い文化のまちづくりを推進するため。